

「KYT」(危険予知トレーニング)研修を行いました

1月12日に新入社員に向けて「KYT研修」を行いました。現場や工場の普段行っている作業の画像を見ながら、「この作業のここが危ない」「この作業の危険をなくす為には？」という事について話し合い、発表を行いました。あらためて日頃行っている作業について時間をかけて振り返ると、色々な危険が潜んでおり「少し考えて行動するだけで事故を減らせる」という事が分かりました。また、午後には「何故事故が起きるのか？」の原因を考え、「事故を減らす為」に過去の事故統計の解説や先輩たちの経験を交えて「座談会」を行い、今後行う仕事に対してあらためて考えさせられる講習になったのではないかと思います。

～研修を終えての感想～

過去の例を学べたことで、無知や知識不足の恐ろしさをあらためて感じました。常に危険意識を持つと同時に、過去の失敗を繰り返すことがないように、起きてしまった事故に対して自分だったらこう対策しよう、など自分ごととして考えるようにしたいと思いました。

自分は普段通り作業時だと思っていても、慣れや慢心によって、事故を起こす可能性があることが分かりました。危険予知とは自分に起こる危険を予知するだけでなく、「この場面が危ない」など、周りをよく見て、他の人にも危険が及ばないように危険を予知することだと思いました。



▲実際の作業風景を例に研修を行いました



▲ディスカッションで事故の原因を考えました



▲午後には事故統計の解説を行いました



新型コロナウイルス/オミクロン株に関して



日本でもオミクロン株による感染が急速に拡大、今や「第6波」の渦中にあります。新規感染者数の過去最多を更新し続けている中で、無症状や軽症者が多いと言われておりますが、**これまでの感染予防対策を徹底してご自分と周囲の人たちを守りましょう。**

オミクロン株とは

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株の一つです。令和3年11月28日、国立感染症研究所は「懸念される変異株」と位置付け、国内では同月30日に最初の患者が確認されました。令和4年2月2日の時点で日本全国の新規感染者数は1日あたり9万人を超えています。

特徴

- ① ウイルスに既存の株以上に多数の変異が見られており、細胞の受容体に結合しやすくなり、感染力が高い
- ② 発熱・咳・だるさ・のどの痛みなどの風邪症状が中心
- ③ 潜伏期間が短い可能性(通常が5日程度に対して、オミクロンは3日程度)
- ④ 味覚嗅覚障害が通常株・デルタ株に比べて少ない

(参考:東京都福祉保健局HPより引用)

